

板書型指導案に関する一考察

前原 隆志

A Study on the blackboard type teaching Plan

MAEHARA Takashi

(Received August 3, 2016)

キーワード：板書型指導案、学習指導、授業改善、教員研修

はじめに

山口県では、多くの小・中学校で「板書型指導案」と呼ばれる指導案形式を使って、校内研修が進められている。山口県教育委員会では、平成23年度頃から「板書型指導案」の活用を推奨しており、各種研修会や校内研修で取り入れられている。山口県教育委員会は、板書型指導案導入にあたって、「特別な授業だけではなく、板書型指導案を日常的に作成し、毎日の授業を計画的に実施することが大切」とし、「板書を計画することで、めあてや予想される児童生徒の反応、まとめなどを整理し、授業の流れをイメージすることができる¹⁾」としている。

板書型指導案に関する全国的な状況については、教育委員会や教育研究会等による組織的な取組はほとんど見られないのが現状である。数少ない組織的な取組例としては、北海道社会科教育連盟において、平成20年度から、社会科授業をよりわかりやすく実践できるよう、板書構成を中心とした実践書を作成しており、現在vol. 1～9が公刊されている²⁾。また、沖縄県教育委員会那覇教育事務所のWebページには、指導案様式が示されており、小学校算数、中学校数学の記入例が掲載されている³⁾。

このほか、若干の書籍公刊等の事例はあるものの、都道府県教育委員会単位で、小・中学校の校種、教科、領域を越えて、広範に活用されている例は、山口県以外には見られない。

筆者は、山口県教育庁義務教育課に勤務し、この指導案形式を活用した授業改善に取り組んできた。また、山口大学教育学部に勤務してからは、教育実習部として「教育実習の手引き」の作成や、これを活用した学生指導も進めてきた。こうした経験の中で、板書型指導案が導入された目的とその特徴、学校での活用の実際について、整理し考察する必要性を感じてきた。

本稿では、板書型指導案について、①特徴、②誕生の経緯、③実際の作成事例、④学校現場の状況、の4点から考察する。こうした考察を通して、「板書型指導案」のもつ特質を明らかにしていきたい。

1. 板書型指導案の特徴

板書型指導案とは、「主眼（ねらい）」「板書計画」「発問」を、A4用紙1枚に簡潔にまとめたものである。板書型指導案の特徴を以下に述べる。

1-1 板書型指導案の構成

板書型指導案に記述される内容は、図1のように、以下の3つの部分で構成される。

(1) 主眼（ねらい）

主眼は、「○○に着目し、○○する活動を通して、○○が理解（説明）できる。」といった文

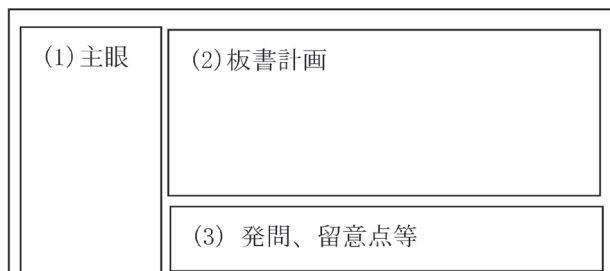


図1 板書型指導案の基本構成

を基本形とし、「教材」「学習活動」「学力」の3つの要素を明確にして、学習の方向性が端的に分かるように記述されている。

(2) 板書計画

板書計画には、以下の内容が記述されている。

- ①題材名や「授業のめあて」
- ②資料や問題の提示場所や、その資料に対して予想される児童生徒の意見
- ③児童生徒の思考を促すための発問や、順序や因果関係を表わすための矢印や色囲み
- ④授業の「まとめ」となるキーワードや命題

(3) 発問を中心とした授業の流れや留意点

授業の流れに沿って、児童生徒に学習活動を促す発問や、資料を活用して思考を深める発問などが、吹き出しの枠内に記述されている。

1-2 板書型指導案の特徴

板書を中心として作成される板書型指導案の特徴は、以下の3点に整理できる。

(1) 授業イメージの可視化

板書計画を中心に授業案を作成することで、授業づくりに必要とされる「教材の分析」「指導の計画」「適切な発問や指示」「学習のまとめ」などについて、授業全体のイメージを可視化し、一目で明確に示すことができる。

(2) 学習内容の整理

1時間で板書できる文字数は限られており、学習内容を絞り込んで構造的に整理することで、児童生徒による学習活動の時間を確保し、主体的な学びを保障することができる。

(3) 授業記録としての活用

板書型指導案と実際の板書を比較し、事前に予想した児童生徒の反応と、実際の発言や活動の違いなどを振り返ることで、授業改善を進めることができる。また、板書計画に修正点を書き込んでいくことで、次時や次年度の授業に生かすことができる。

2. 板書型指導案の誕生の背景

板書型指導案を最初に提案したのは、平成22年、山口県下関市立名池小学校に、学力向上推進教員として勤務していた板倉 豊氏（現山口県山口市立大歳小学校校長 平成28年現在）である。筆者は、板倉氏から板書型指導案を提案した背景について聴き取りを行った。聴き取りは、平成28年6月27日に、板倉氏の現在の勤務校である山口市立大歳小学校校長室において、山口大学教育学部学生、教職大学院生ら計4人と共に実施した。以下に、その概要を示し、考察を加えたい。

2-1 学力向上推進教員としての取組

板倉氏は、平成22年、下関市立名池小学校に学力向上推進教員として勤務した。

学力向上推進教員とは、山口県内の各市町の小・中学校に数名ずつ配置され、市町教育委員会と連携して、地域内の4校程度を兼務しながら継続的に訪問し、少人数教育指導の形態を取って授業を提供したり、授業改善への指導助言を専門的に行ったりする教員である。この制度は、平成21年度に山口県内合わせて2名からスタートし、翌22年度には7名に拡充された。このうちの1人が板倉氏である。

板倉氏は、名池小学校を中心として、他に3小学校を兼務し、T1として授業を展開したり、T2として学級担任と共に授業を実施したりして、児童の指導を行うとともに、放課後にはミニ研修を行い授業改善についてアドバイスするなどの取組を継続的に行った。

こうした取組を進める中で、自らT1として授業を提供する場合も、また、T2として学級担任とチーム・ティーチングを実施する場合も、簡便で、なおかつ視覚的な指導案形式が必要であるという思いに迫られたという。特に兼務校においては、短い打合せ時間のうち授業を実施するため、双方の教員の負担をできるだけ少なくし、かつ授業の流れが一目で確認できる指導案形式が求められた。そこで考案されたのが、板書計画を中心とし、ワンペーパーで授業全体の流れが把握できる板書型指導案である。

板倉氏は、「授業改善に熱心な教員ほど、授業前に発問や板書計画を何度も考え、ノートにメモして授業に臨んでいる。授業展開の構想を練り上げたり、教師の指示や発問を書きとめたりしているネタ帳のようなノートを作っている意欲的な教師は多い。メモ書きのままになっている重要な授業のアイデアを1枚の指導案の形にまとめて、教員間で共有できれば、日々の授業改善が一層進むのではないかと考えた。」と当時を振り返っている。

2-2 板書型指導案作成上の留意点とその特質

板倉氏は、板書型指導案導入の目的を、教員の研修意欲や資質向上にあると述べている。特別な日や1回だけの公開授業のための授業研究ではなく、毎日の授業を改善することで、実際に目の前の児童生徒に力が付くことが、教員の研修への意欲を引き出し、授業力を向上させるという。そのために、板書によって授業を「見える化」し、イメージできるようにしたものが、板書型指導案である。

板倉氏が特に主張しているのは、「板書計画は手書きが基本」という点である。板書型指導案の根幹である板書部分は、「ラフ・スケッチや絵コンテと同様に、柔軟性が必要である」との思いが強い。図やイメージ、算数における分数などを描く際、発想に従ってイメージ図に自由に加筆しながら、しかもパソコン操作に手間取ることなくスムーズに書き込めることが必要であり、そのためには、板書部分を手書きにすることは、大切な要素だ、という。場合によっては、実際に黒板に板書したものをデジタルカメラで撮影し、指導案に貼り付けたものもあるという。

「板書部分は手書きが基本」という点にこだわる板倉氏の主張からは、板書型指導案の特質として柔軟性や可塑性があることが分かる。

2-3 板書型指導案に連動する取組

板倉氏は、板書型指導案と連動すべき重要な取組として、「授業中にノート指導をすること」と「授業後に板書写真を取り、ミニ研修をすること」の2点を指摘する。

「授業中のノート指導」については、子どもが自分の考えを「キーワード、図、式」でノートに表現している箇所を捉えて、価値付けることが大切であるとし、子どものノートに書き込み評価をしたり付箋を添付したりして、具体的によい点を記入してほめる指導を行ってきた、としている。こうした指摘は、教員が伝えようとした学習内容を、子どもたちがどこまで理解したのかについて、子どものノートから発見できる、ということの意味している。

また、「授業後の板書写真」については、授業前の計画と実際の板書の記録写真を比較することで、教員と子どもの考えのずれが見つかるなど、授業改善のポイントが明確になる。その過程を、授業者本人はもとより、その他の教員とも共有し、修正に至った状況や原因を検討できる、という。

板書型指導案では、板書計画と、実際の板書記録の比較による事後検討が可能であり、さらに児童生徒のノート記述の分析による学力定着の確認ができる点が、大きな特質と言える。

3. 板書型指導案の事例

次に、板書型指導案の事例として、筆者が作成した中学校社会科学習指導案を掲載する(図2)。中学校1年の社会科地理的分野で、中華人民共和国(以下、中国)を対象とした地域調査を教材として取り上げている。主眼を、「中国料理の地域区分に着目し、各地域の自然条件と社会条件を分析する活動を通して、中国の地域的特色を理解することができる」とし、中国料理に着目し地域区分をする学習活動を中心においている。

本事例を通して、筆者が、どのような手順で板書型指導案を作成したのかを述べたい。

(1) 板書計画の作成

まず、最初に板書計画を作成する。作成に当たっては、中心となる教材に着目し、生徒の興味が高まるよう、板書全体の配置を検討する。今回は、主な学習活動として「中国を地域区分する」という活動を設定したため、黒板中央に中国全体図を配置し、その周りに、教員からの発問や生徒の回答を記載する構成とした。

次に、本時のねらいを記載する。本時は、生徒が好きな中国料理をあげたのち、それらを中国料理店が一般に用いている四大料理の区分に分類し、「中国料理の地域による違いを調べよう」をねらいとした。

以下、発問に沿って、生徒が回答するであろう内容や、地図を調べて発表するであろう事項を整理して記

載している。

最後に、まとめについては、中国を南北と海岸部・内陸部に区分する際、必要となる社会的条件を示し、それぞれ簡潔にまとめている。

(2) 発問の記載

発問は板書上に記載したほか、言葉の吟味や順序、時間配分を検討するために、発問欄にも確認のため記述している。続いて、この発問後に行われる生徒の学習活動を記述する。いったん学習活動が開始されたら、できるだけ生徒の自主的な活動の時間を確保するため、指示的な発言は最小限にとどめたい。このため、生徒の活動開始までに確認しておきたい補助的な指示事項を記載している。

(3) 主眼、指導上の留意点、評価の記載

主眼は、教材に関して「〇〇に着目し」、学習活動に関して「〇〇する活動を通して」、学力に関して「〇〇が理解できる。」という一文で記述する。

指導上の留意点は、導入、展開、終末の各段階を追って、特に強調したい工夫点や押さえない内容を記述している。

評価は、学習指導要領に基づき、求められている学力が概ね達成できた様子を記載している。

(4) 指導案検討

指導案検討に際しては、発問欄の授業冒頭の生徒への投げかけから順に確認する。提示する教材や話題、最初の発問が、生徒の学習意欲を高め、本時のねらいに連結しているかを検討する。また、本時のねらいが、生徒の「知りたい、学びたい、やってみよう」という意欲に合致しているかを吟味する。

次に、教員の発問と、それに対応する生徒の反応が、発問欄と板書欄に具体的に記載できているかを確認する。さらに教員からの投げかけと、予想される生徒の反応の整合性や、回答の類型化を検討する。

授業後半の山場では、これまで気付かなかった新たな見方・考え方に気付いたり、一般化された概念に導いたりする発問があるかどうかを確認する。また、発問への応答が板書上に整理されているかを確認する。

最後に、生徒が授業を振り返ってまとめる際の短文の書き出しを記載したり、キーセンテンスを確認したりするなどして、学習課題に対応し終末段階で生徒に付けたい学力の姿をイメージできるようにする。

中学1年社会科学習指導案「世界のさまざまな地域の調査～中国を例に～」 平成28年2月22日(月)

指導者 前原隆志

<p>1 主眼</p> <p>中国料理の地域区分に着目し、各地域の自然条件と社会条件を分析する活動を通して、中国の地域的特色を理解することができる。</p> <p>2 指導上の留意点</p> <p>①生徒の好きな中国料理を挙げ、合わせ調味料のパッケージを示して、四大料理の区分法で地域区分を行う。</p> <p>②地図帳の主題図を用いて、位置や地形、気温、降水量などの自然条件に着目する。</p> <p>③地図帳の主題図を用いて、人口、産業、経済などの社会条件に着目する。</p> <p>④中国を地域区分する際の視点を考え、南北と海岸部・内陸部で区分できることを振り返る。</p> <p>3 評価</p> <p>地図を有効に活用したり、自分の解釈を加えて事象を説明したりするなど、地域調査の視点や方法を見付けることができたか。</p>

世界のさまざまな地域の調査～中国を例に～
めあて「中国料理の地域による違いを調べよう」

<p>本時の流れ</p> <p>導入「あなたの好きな中国料理を挙げてください」</p> <ul style="list-style-type: none">生徒の挙げた料理を、四大料理の区分法で地域区分する。 <p>めあて「中国料理の地域による違いを調べよう」</p> <p>展開1「それぞれの料理の特徴を説明しよう」</p> <ul style="list-style-type: none">グループで四大料理の一つを担当し、食材や味の特徴を調べて発表する。 <p>展開2「違いが生まれた原因を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none">トレーシングペーパーを使って地図帳の主題図をトレースし、他の主題図と重ねて調べる。	<p>発問「中国を南北に分けてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none">地形、気温、降水量に着目して区分する。 <p>発問「海岸部と内陸部の違いを見つけよう」</p> <ul style="list-style-type: none">人口、産業、経済に着目して区分する。 <p>まとめ「中国はどのように地域区分したらよいのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none">自然条件、社会条件で区分できることを確認する。
--	---

図2 板書型指導案の実例

4. 板書型指導案からわかる学校現場における状況

学校現場では、実際にどのような板書型指導案が作成されているのであろうか。ここでは、山口県教育庁義務教育課が作成した「授業づくり拠点校研修会 事例集」平成25・26・27年度の3カ年を分析資料として検討する⁴⁾。

この事例集は、山口県教育委員会主催の「授業づくり拠点校」研修会の実践事例をまとめたものである。授業づくり拠点校は、山口県内を大きく7地域に分け、各地域で、小学校の国語、算数、中学校の国語、数学、理科の5つの授業を公開しており、毎年県内で合計35校が指定された。

本事例集は、Webページでも公開されており、公開授業の板書型指導案、授業の実際、研究協議の内容、考察等が記載されている。掲載された板書型指導案は、3カ年の合計で124事例あり、これだけまとまった数で公開されているものは、現時点では本事例集が唯一である。

この124枚の板書型指導案を対象として、①「学習課題の具体性」、②「発問」、③「予想される児童生徒の反応や発言」、④「授業のまとめ」の4つの観点について、指導案上にどのように記載されているかを、教科別、学年別に整理したものが後掲図8、図9の板書型指導案整理表である。この整理表をもとに、板書型指導案からわかる、山口県内の学校現場の状況を分析する。

4-1 学習課題の具体性

本事例集に掲載された124枚の板書型指導案では、全ての指導案で、本時の学習課題が板書上に明記されている。学校によっては、「めあて」「ねらい」「課題」などの用語を使用しているが、いずれも授業の早い段階で、本時を貫く学習課題が提示され、板書されていることがわかる。

従来型の指導案の場合、学習課題を示すことは記載されているものの、実際に児童生徒にどのような言葉で示すのかが、必ずしも明記されていないものもある。板書型指導案の場合、その文言が板書上に明記されているため、学習課題の具体性について検討することができる。以下に、検討結果を示す。

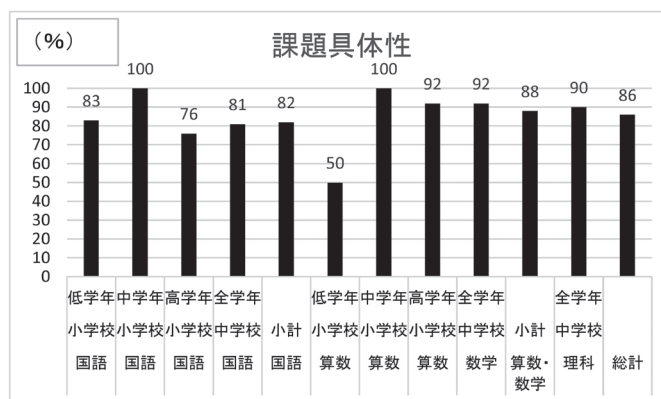


図3 学習課題の具体性

学習課題の具体性とは、その課題が「一般的なものか」、それとも「本時に提示された教材特有の課題か」を指している。例えば、一般的な課題とは、「わかりやすく伝えるための工夫を考えよう」といった課題であり、教材特有の課題とは、教材「ごんぎつね」において、「ごんをうってかけよる兵十は、どんなことを考えたか」といったものである。

課題が一般的な場合、教員側にとっては教えた指導内容を明確に提示できる反面、児童生徒側からは「どこから手を付けてよいのかわからない」といった問題が生じる。一方、課題が教材特有の場合、児童生徒の学習意欲は高まるが、教材の本質に迫ろうとする際には、さらなる中心発問が必要となる。

124事例を分類した結果、全体の86%にあたる107事例が、具体的な課題となっている(図3)。特に、算数・数学の小学校中学年以上で、具体的な学習課題が提示される割合が、90%以上の高率となっている。

実際に板書された「めあて」の文だけを一覧で読んでみると、具体的な課題のほうが、児童生徒の学習意欲が高まることが予想される。現在、山口県内の学校現場では、授業の導入段階で「めあて」を提示し、見通しをもって授業を進めるという指導が概ね普及している。今後は、学習課題を、教材に即してどこまで具体化し、どのような文言で板書するのが課題とされるだろう。

4-2 発問

児童生徒に主体的な学習活動を促すためには、発問の検討が欠かせない。本事例集に掲載された124事例のうち、発問が記載されたものは、全体の46%にあたる57事例である。教科別に見ると、国語53%、算数・数学34%、中学校理科52%である(図4)。

板書型指導案では、吹き出し等の枠を使って、発問を明示できるよう工夫されている。このような枠が

あっても、なお、発問記載率が50%以下という現状は、学習課題と発問が同じであるためわざわざ記載しなかった場合や授業計画の段階で、発問を想定することが難しい場合があると考えられる。

実際、発問は授業展開の中で児童生徒の発言や反応に応じて、柔軟に変更されるべきであり、また、中心となる発問に加え、補助発問によってきめ細かく児童生徒の思考を揺さぶる必要もある。しかし、当初予想していた発問が、授業の中でどのように変更されたのかを検証するためにも、指導案に発問を明示することは大切である。その意味では、板書型指導案によって、50%近くまで発問が明示されたことで、授業検討の素材が提供されたと考えることもできる。

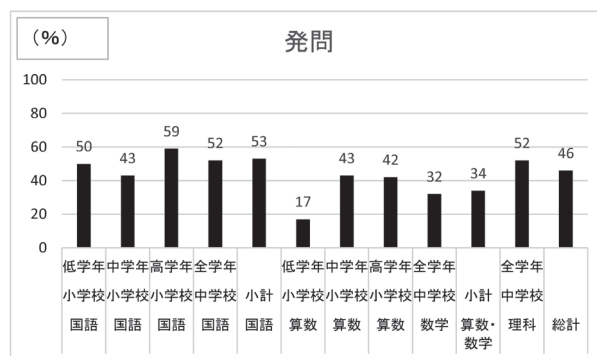


図4 発問の記載

4-3 予想される児童生徒の反応・発言

児童生徒の反応や発言を予想し、板書上に記載した割合は、全体の57%に当たる71事例である。教科別に見ると、国語61%、算数・数学68%、中学校理科19%である(図5)。

算数・数学で記載率が高いのは、反応がある程度類型化でき、それぞれの反応に応じて指導の手立てを計画するためと考えられる。一方、中学校理科で記載率が低いのは、たくさんの学習内容を確実に押さえたり、実験等の結果を板書して端的にまとめたりするためと考えられる。しかしながら、記載率が全体でも57%であることは、板書が教員の教えたい指導事項を視覚化することを中心に用いられているという実態を反映しているとも考えられる。

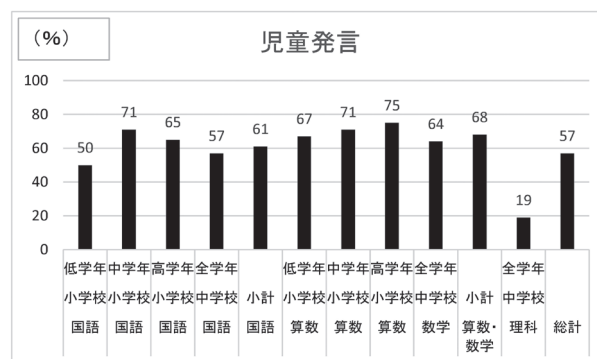


図5 予想される児童生徒の反応・発言の記載

近年、授業において、グループワークや話し合いを行って、班ごとにホワイトボードにまとめ、黒板に貼って意見を発表する形式の授業展開が見られるようになってきた。こうした授業構想の場合、板書計画に、ホワイトボードの枠だけが班の数ほど描かれ、その内容は空白となっていて、児童生徒が実際に書いてみるまでわからないといったものも見られる。本稿では、こうしたホワイトボードの枠のみの記載事例については、予想される児童生徒の反応の記載がないものとして分類している。

一方では、児童生徒がホワイトボードに記入するであろうことをあらかじめ予想し、記入する板書計画もみられる。それをもとに、児童生徒の意見を整理・分類したり、対立点を明確にしたりして、新たな見方や考え方に高めようとしている。

今後、アクティブ・ラーニングの導入が進められることを想定すれば、授業中に、単に話し合いの場面を設定するだけでなく、児童生徒の発言や反応を予想して、協働的で深い学びへと導くことが求められる。その際、児童生徒が記入するであろうホワイトボードの記入内容に即して、分類したり関連付けたりするなどの計画を、授業構想に盛り込むことが求められるのではないだろうか。

4-4 授業のまとめ

授業の終末では、児童生徒自身が、本時の学習を振り返って、「今日の授業でわかったこと」「今日のポイント」などのまとめをすることが効果的とされている。その記載率は、全体の52%にあたる64事例である。教科別に見ると、国語35%、算数・数学64%、理科62%である(図6)。

特に、算数・数学においては、学年進行に従って記載率が上昇しており、小学校低学年50%、中学年57%、高学年58%、中学校72%となっている。算数・数学のような、学習内容の系統性が求められる教科では、1時間ごとに習得した知識・技能や、見方・考え方を確認し、確実に積み上げていく必要から、まとめの記載が行われていると考えられる。

一方で、国語においては、小学校低学年では0%、中学年29%、高学年47%、中学校38%となっており、記載率は必ずしも高くはない。授業終末における、「今日わかったこと」は、個人内の思考であり、全体で共有したり、確認したりするものではないとの認識があるとも考えられる。国語の教科として身に付けるべき言語能力やコミュニケーション能力を、授業終末にどのように確認するかが今後の課題である。

4-5 取組の推移

以上、4つの観点で板書型指導案を検討してきた。4観点を合計した3カ年の出現率の変化を見ると、ほとんど変化なく、60%前後で推移している(図7)。

指導案上から読み取ることができることは、授業における「ねらい、発問、児童生徒の反応、まとめ」などの具体的な要素の記述が、全体の6割程度に留まっていることである。

これらの内容については、教員自身の中では当然想定されており、間接的に文章中に記載されているものもある。しかし、それが児童生徒に確実に伝わるためには、指導案上に明記され、客観的に検討される必要がある。

4-6 板書型指導案から見た学校現場

板書型指導案は、記載事項をできるだけ絞り込み、なおかつ具体的内容を視覚的に示す上で、効果的な指導案形式と言える。その形式を用いても、なお、具体的記載の出現率が6割前後であるという事実は、今後の授業研究に一石を投じる結果だとも言える。

実際に、授業後の板書を写真に撮って比較すれば明白であるが、当初は予想しなかった児童生徒の発言が書き込まれたり、書く予定だったまとめが変更されたりすることはよくあることである。また、予定した発問が子どもたちに理解されにくいと感じて、別の問い方に改めることもよくある。

このような、当初想定した授業構想と現実のずれを授業者本人が確認し、また参観者と共有するためには、指導案の中に、できるだけ具体的な要素を記入することが大切である。

「板書型指導案では、授業計画がよく見えてこない」という声を聞くことがある。板書型指導案は、従来型の指導案より物理的に文章量が少なく、説明しきれない部分があることは事実であり、読み手が意図をもって読み込むことが必要となる。しかし、重要なことは、記載要素を絞り込んでいったとき、これまで文章で曖昧に記述していたことがそぎ落とされ、結果として、必要な要素が十分に盛り込まれていなかったことに気付くことである。「板書型指導案の形式だから授業が見えない」のではなく、板書型指導案に仕立てることによって、授業構想のあいまいさが明白になった、と捉えることができるのではないだろうか。

板書型指導案という選択は、単に指導案作成の負担を軽減するという業務改善以上に、授業の構成要素を絞り込み、校種、学年、教科を越えて指導方法とその効果を検証するといった、授業改善の本質に迫る取組であると考えられることができる。

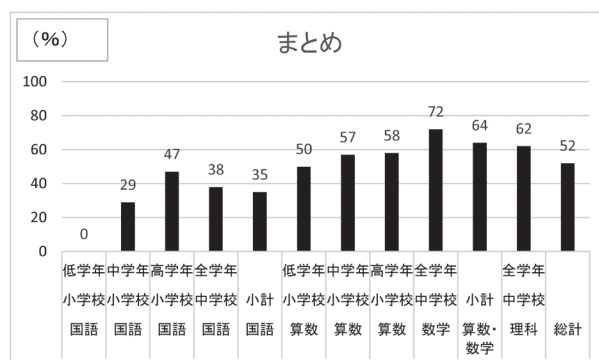


図6 まとめの記載

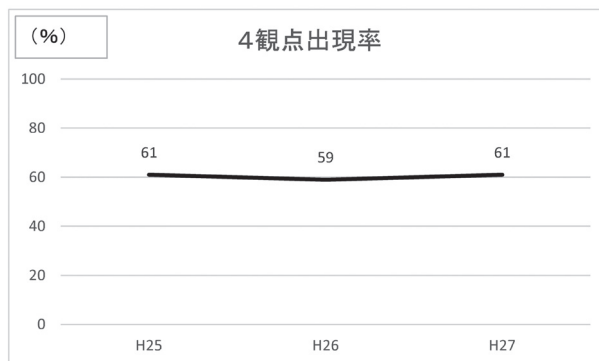


図7 4観点の出現率の推移

No.	年度	学校	校種	学年	教科	めあて	課題の 具体性	出現率	発問	出現率	予想さ れる反 応	出現率	まとめ	出現率
1	H25	I市立M小	小学校	1	国語	○	しょうぼうていのやくめとくふうをみつけよう	○	○	○	なし	○	なし	○
2	H25	K市立H小	小学校	1	国語	○	いいことをかかんがえたチロになりきっておはなしカードをかこう	○	○	○	○	○	なし	○
3	H27	S市立T小	小学校	1	国語	○	音読劇 ○の小学校バージョンをつくろう	○	なし	○	○	○	なし	○
4	H26	I市立N小	小学校	2	国語	○	体のつくりのすごいいところを見つけよう	△	なし	○	○	○	なし	○
5	H27	I市立A小	小学校	2	国語	○	絵と作文メモをもとにお話しを書こう	○	なし	○	○	○	なし	○
6	H27	M市立I小	小学校	2	国語	○	すみれちゃんは、えらいおねいさんになれたらどうか。	○	○	○	○	○	なし	○
7	H26	I市立N小	小学校	3	国語	○	もうどう犬の「人を安全にみちびく訓練」とは、どのような訓練か要約しよう	○	なし	○	○	○	なし	○
8	H27	S町立M小	小学校	3	国語	○	じんざの気持ちを考えながら読んで感想を伝え合おう	○	○	○	○	○	なし	○
9	H27	K市立H小	小学校	3	国語	○	「人を安全に導く訓練では、何を教えるのか」という問いの答えになるよう、大事な言葉や文を見つけて要約しよう。	○	なし	○	○	○	○	○
10	H25	I市立M小	小学校	4	国語	○	しょうかい文をもっとよいものにするために、友達の良いところを取り入れよう。	○	なし	○	○	○	○	○
11	H26	S市立T小	小学校	4	国語	○	ごんをうってかけよる兵士は、どんなことを考えたか	○	○	○	○	○	○	○
12	H27	Y市立O小	小学校	4	国語	○	ごんはなぜ家の中にはいったのか考えよう	○	なし	○	○	○	○	○
13	H27	M市立I小	小学校	4	国語	○	自分の感想を一文にまとめよう	○	○	○	○	○	○	○
14	H25	I市立M小	小学校	5	国語	○	報告文を推敲しよう	△	○	○	○	○	○	○
15	H25	T町立H小	小学校	5	国語	○	大造じいさんは、残雪のどのような行動に心を打たれたらどうか。	○	なし	○	○	○	○	○
16	H25	Y市立O小	小学校	5	国語	○	A社とB社の記事の書き手の意図を考えよう	○	○	○	○	○	○	○
17	H25	S市立T小	小学校	5	国語	○	資料を組み合わせて、説得力のある意見文を書こう。	△	○	○	○	○	○	○
18	H25	H市立M小	小学校	5	国語	○	読み比べることによって、より明確に見出しを付けることができる	○	○	○	○	○	○	○
19	H26	H市立T小	小学校	5	国語	○	写真や表・グラフの効果について考えよう	○	○	○	○	○	○	○
20	H26	S市立T小	小学校	5	国語	○	気候のよさをアピールするグラフを選んで紹介文を書こう	○	なし	○	○	○	○	○
21	H27	I市立A小	小学校	5	国語	○	発表の構成と、説明に必要な資料について考えよう	○	なし	○	○	○	○	○
22	H27	K市立H小	小学校	5	国語	○	わかりやすく伝えるための工夫を考えよう	△	なし	○	○	○	○	○
23	H25	I市立M小	小学校	6	国語	○	意見を交流しよう	△	○	○	○	○	○	○
24	H25	S市立K小	小学校	6	国語	○	24.25段落は必要？	○	○	○	○	○	○	○
25	H26	I市立N小	小学校	6	国語	○	なぜ太一はクエをうたなかつたのか。	○	なし	○	○	○	○	○
26	H26	Y市立R小	小学校	6	国語	○	問題(さわやかなあいさつができない)を解決するために話し合おう	○	○	○	○	○	○	○
27	H26	M市立M小	小学校	6	国語	○	宮沢賢治が「やまなし」で表したかったことは何だろう	○	○	○	○	○	○	○
28	H26	N市立F小	小学校	6	国語	○	(形式段落の)ABCDEのどれが一番要旨に合っているだろうか	○	なし	○	○	○	○	○
29	H27	M市立I小	小学校	6	国語	○	筆者の表現の工夫を参考にして、『鳥獣戯画』絵巻の解説文を書こう	○	○	○	○	○	○	○
30	H27	N市立M小	小学校	6	国語	○	絵から読み取ったことや感じたことを友達に伝えるように工夫して文章に書き上げることができる	○	なし	○	○	○	○	○
31	H25	I市立A小	小学校	1	算数	○	ともだちのつったもんだいをとこう	△	なし	○	○	○	○	○
32	H26	S市立K小	小学校	1	算数	○	けいさんのしかたをかかんがえよう	△	なし	○	○	○	○	○
33	H25	N市立S小	小学校	2	算数	○	かけ算をつかってくふうしてもとめよう	○	○	○	○	○	○	○
34	H26	I市立A小	小学校	2	算数	○	まるの数を求めよう	○	なし	○	○	○	○	○
35	H27	I市立H小	小学校	2	算数	○	かけ算になる問題をつかってときあおう	○	なし	○	○	○	○	○
36	H27	S市立K小	小学校	2	算数	○	かけ算をつかってくふうしてもとめよう	△	なし	○	○	○	○	○
37	H25	Y市立H小	小学校	3	算数	○	どんな長さが1/2mのかな	○	なし	○	○	○	○	○
38	H25	S市立S小	小学校	3	算数	○	あまりをどうするのか考えよう	○	なし	○	○	○	○	○
39	H25	I市立A小	小学校	4	算数	○	2通りの代金の求め方について話し合おう	○	なし	○	○	○	○	○
40	H26	T町立T小	小学校	4	算数	○	関係図を書いてとき方を説明しよう	○	○	○	○	○	○	○
41	H26	Y市立O小	小学校	4	算数	○	長方形に作りかえて、面積を求めよう	○	○	○	○	○	○	○
42	H27	S市立O小	小学校	4	算数	○	和のがい算ではどんな概算をすればいいのかな	○	○	○	○	○	○	○
43	H27	H市立T小	小学校	4	算数	○	3つの関係を図に書き、答えの求めかたを説明することができる	○	○	○	○	○	○	○
44	H25	S市立T小	小学校	5	算数	○	二つの平均から全体の平均を求めよう	○	○	○	○	○	○	○
45	H25	U市立K小	小学校	5	算数	○	チラシの内容を正しく読み取って問題を解こう	○	なし	○	○	○	○	○
46	H26	M市立O小	小学校	5	算数	○	しきつめられるかな	○	なし	○	○	○	○	○
47	H26	S市立T小	小学校	5	算数	○	これまでの学習を生かして問題をとこう	△	なし	○	○	○	○	○
48	H27	I市立H小	小学校	5	算数	○	植物の発芽の実験をするために、1セット100個入りの大豆が一人につき4セットあります。5年生85名で340セットが必要です。一人で、早く簡単に用意できる方法を考えよう。	○	なし	○	○	○	○	○
49	H27	S市立T小	小学校	5	算数	○	人口のこみぐあいを比べるもつともよい方法を考えよう	○	○	○	○	○	○	○
50	H25	I市立A小	小学校	6	算数	○	条件にあてはまる行き方を考えよう	○	○	○	○	○	○	○
51	H25	K町立K小	小学校	6	算数	○	時間と水の深さの関係について考えよう	○	○	○	○	○	○	○
52	H26	I市立A小	小学校	6	算数	○	円の面積の公式を利用して、いろいろな図形の面積を求めよう	○	なし	○	○	○	○	○
53	H26	A町立A小	小学校	6	算数	○	2つの量の変わり方を調べよう	○	なし	○	○	○	○	○
54	H27	T町立O小	小学校	6	算数	○	全校児童がウェブをするのにかかる時間を予想しよう。	○	○	○	○	○	○	○
55	H27	H市立N小	小学校	6	算数	○	花火から西浦小までの距離は何mでしょうか	○	○	○	○	○	○	○
56	H26	H市立A小	小学校	6	理科	○	ゼリーが動くのはなぜだろう	○	○	○	○	○	○	○
57	H27	H市立A小	小学校	6	理科	○	宇宙から見た地球はどんな様子だろう	○	○	○	○	○	○	○

図8 板書型指導案整理表(小学校)

58	H25	S町立A中	中学校	1	国語	○	筆者の工夫を説明しよう(比喩)	○		なし	○	○			
59	H26	Y市立Y中	中学校	1	国語	○	段落の構成や論の展開を考えて文章を復元し、作者の意図を読み取る	○		○	○	○			
60	H26	U市立K中	中学校	1	国語	○	図表を使って、事実と自分の考えを書こう	○		○	なし	なし			
61	H27	H市立K中	中学校	1	国語	○	表現に注目して、詩を読み深めよう	△		○	なし	なし			
62	H27	S市立T中	中学校	1	国語	○	詩を復元する	○		○	○	○			
63	H27	H市立H中	中学校	1	国語	○	図表を使って筆者が伝える考えを読み取る	○		○	○	○			
64	H25	H市立H中	中学校	2	国語	○	資料を読み、根拠を明らかにして自分の立場を決定しよう。	○		なし	○	○			
65	H25	S市立F中	中学校	2	国語	○	二つの新聞記事の共通点と相違点をともに、それぞれどんなことをどのように書いているのかを比較し、表現の背後にある書き手の意図について考えよう。	○		○	なし	○			
66	H26	S市立K中	中学校	2	国語	○	それぞれの新聞はどんな意図をもって「編集」されているのかを説明しよう	○		○	○	○			
67	H25	I市立Y中	中学校	3	国語	○	孔子の教えを読み解き、自分の考えをもつ	○		○	なし	○			
68	H25	S市立M中	中学校	3	国語	○	「私」の考える『希望』をもとに、「私」の考えを分析しよう。	○	81%	なし	52%	○	57%	なし	38%
69	H25	M市立O中	中学校	3	国語	○	本文の情景や引用された言葉をふまえて俳句に込められた芭蕉の無常観を捉えることができる	○		なし	○	○			
70	H25	Y市立M中	中学校	3	国語	○	二首の短歌を比較して読み味わおう	○		○	○	○			
71	H26	I市立H中	中学校	3	国語	○	語り手「私」は、「誰が」隠したと考えているのか。	○		なし	○	○			
72	H26	S市立K中	中学校	3	国語	○	複数の資料から相手や目的を意識して、伝えたいことを考え、組体操をPRするための写真を選ぼう。	○		なし	なし	○			
73	H26	Y市立H中	中学校	3	国語	○	表現を比較して読み味わおう	△		なし	なし	○			
74	H26	H市立H中	中学校	3	国語	○	さいごの四行に込められた「私」の思いについて、自分の考えを深める	○		なし	○	○			
75	H27	I市立I中	中学校	3	国語	○	俳句や本文から作者の思いを読み取る	△		なし	なし	○			
76	H27	Y市立Y中	中学校	3	国語	○	聴き方をどうすれば、話し手が話しやすいかを話し合おう。	○		○	○	○			
77	H27	S市立T中	中学校	3	国語	○	語り手の批評から、作者が語りかけていることをとらえよう	○		○	○	○			
78	H27	U市立M中	中学校	3	国語	○	松尾芭蕉を取り入れて、あなたの作文を変化・アップさせよう	○		なし	○	○			
79	H25	H市立K中	中学校	1	数学	○	比について考えよう	△		○	○	○			
80	H25	S市立N中	中学校	1	数学	○	平成の縄張り師になろう	○		なし	○	○			
81	H26	I市立I中	中学校	1	数学	○	コピー用紙の枚数の求めかたを考え、説明しよう	○		なし	○	○			
82	H26	S町立A中	中学校	1	数学	○	代表値をもとに適正な下校時刻を決めよう	○		なし	なし	○			
83	H26	K市立K中	中学校	1	数学	○	工夫して魔方陣をつくらう	○		○	○	○			
84	H26	H市立K中	中学校	1	数学	○	図形の移動を使って、クッキーの生産ラインを作ろう	○		なし	なし	○			
85	H26	S市立B中	中学校	1	数学	○	基石の数を数え、式に表そう	○		なし	○	○			
86	H26	N市立S中	中学校	1	数学	○	ともなって変わる数量の関係を明らかにする	△		なし	○	○			
87	H27	H町立H中	中学校	1	数学	○	割合の考えを使って、正しい方程式に直そう	○		なし	○	○			
88	H27	S市立T中	中学校	1	数学	○	大きさの違いをたとえを用いて説明できる	○		なし	○	○			
89	H27	S市立G中	中学校	1	数学	○	文字の置き方を工夫していろいろな解き方を考えよう	○		○	○	○			
90	H25	N市立F中	中学校	2	数学	○	$\angle a + \angle b + \angle c = \angle d$ となる理由を考え、説明しよう	○		なし	○	○			
91	H26	K市立K中	中学校	2	数学	○	あみだくじを早く確実につくる	○	92%	○	32%	○	64%	○	72%
92	H26	N市立S中	中学校	2	数学	○	三角形の合同条件を使う証明の仕組みをマスターしよう	○		なし	なし	○			
93	H27	I市立H中	中学校	2	数学	○	図や式を使って説明する中で角の性質を活用できる	○		なし	○	○			
94	H27	Y市立K中	中学校	2	数学	○	「三角形の内角の和は180°である」ことを使って、多角形の内角の和を求めよう。	○		○	○	○			
95	H25	Y町立Y中	中学校	3	数学	○	ピタゴラスが見つけた定理を見つけよう	○		○	○	○			
96	H25	Y市立Y中	中学校	3	数学	○	組み直して正方形を作ろう	○		なし	なし	○			
97	H25	K市立K中	中学校	3	数学	○	実際に標本調査を行い、母集団の傾向をとらえよう	○		なし	なし	○			
98	H25	U市立K中	中学校	3	数学	○	変化の様子をイメージグラフに表そう	○		○	○	○			
99	H26	U市立T中	中学校	3	数学	○	正方形を作図し、条件に合っているか確かめよう	○		なし	○	○			
100	H26	N市立S中	中学校	3	数学	○	形は同じで大きさの違う図形の共通点を学ぶ	○		なし	○	○			
101	H27	K市立K中	中学校	3	数学	○	予想した図形の性質を、式の計算を利用して説明することができる	○		なし	○	○			
102	H27	K市立K中	中学校	3	数学	○	バックゲームの最小回数を決まりを説明できる	○		なし	なし	○			
103	H27	A町立A中	中学校	3	数学	○	三角形の1つの内角の二等分線が分ける線分の比について考える	○		○	○	○			
104	H25	H市立A中	中学校	1	理科	○	水の勢いと力を考えよう	○		○	○	○			
105	H25	S市立O中	中学校	1	理科	○	水とみりんを蒸留して得た液体を調べよう	○		○	○	○			
106	H26	K町立K中	中学校	1	理科	○	どのような物質が高温の飽和水溶液の温度を下げて溶質を取り出すのに適しているかを知る。	○		なし	なし	○			
107	H27	I市立K中	中学校	1	理科	○	2つの物質(ガスと空気)の境界で、光の進み方を調べよう	○		なし	なし	○			
108	H27	N市立F中	中学校	1	理科	○	光が鏡で跳ね返るときの規則性を理解する	○		なし	なし	○			
109	H25	S市立T中	中学校	2	理科	○	化石の特徴から当時の様子をつかもう	○		○	○	○			
110	H26	Y市立K中	中学校	2	理科	○	豆電球の明るさが変わった原因を探ろう	○		なし	○	○			
111	H26	S市立O中	中学校	2	理科	○	上昇する空気のかたまりで雲ができる過程を、気象要素を使って説明する	○		○	○	○			
112	H26	H市立O中	中学校	2	理科	○	川霧のできる仕組みを解明する	○		○	○	○			
113	H27	Y市立Y中	中学校	2	理科	○	動物の分類の仕方を知る	○		○	○	○			
114	H27	Y市立K中	中学校	2	理科	○	芯が細いほど電流が流れにくい理由を説明しよう	○	90%	○	52%	○	19%	○	62%
115	H27	U市立K中	中学校	2	理科	○	霧が発生しやすい条件を探ろう	○		なし	○	○			
116	H25	I市立H中	中学校	3	理科	○	同じ時に太陽に照らされているのに、日本とオーストラリアで季節が違うのはなぜだろう	○		○	○	○			
117	H25	H町立H中	中学校	3	理科	○	どの方法が電子オルゴールの音が大きくなるだろうか。	○		なし	○	○			
118	H25	H市立K中	中学校	3	理科	○	考えの根拠を見つけよう	△		○	○	○			
119	H25	A町立A中	中学校	3	理科	○	酸性・アルカリ性の水溶液にはどのようなイオンが存在しているかを知る	○		なし	○	○			
120	H26	I市立Y中	中学校	3	理科	○	物体の運動と、はたらく力について説明しよう	△		○	○	○			
121	H26	H市立A中	中学校	3	理科	○	ゼリーが動いたこと(体積変化)を粒子で説明しよう	○		○	○	○			
122	H26	S市立Y中	中学校	3	理科	○	夏は気温が高く、冬は気温が低いのはなぜか	○		なし	○	○			
123	H27	H市立A中	中学校	3	理科	○	満ち欠けを説明しよう	○		○	○	○			
124	H27	S市立A中	中学校	3	理科	○	運動のようすを詳しく調べるためには	○		なし	○	○			

図9 板書型指導案整理表(中学校)

おわりに

山口県では、全国学力・学習状況調査において、実施直後の平成19、20年度には、小学校で全国平均を大きく下回った状況であったものの、平成25年度以降は、国語、算数の全区分で全国平均を継続して上回っている。こうした成果を上げてきた要因として、学習指導や学力向上の取組を、学校現場と県・市町教育委員会が密接に連携して進めてきたことは、大きな特色であると言える。

学力向上の取組にあたっては、日々の授業改善が最も大切であることはいまでもない。板書型指導案は、そのための重要なアイテムであり、日常的な教材研究、校内研修、初任者研修、県・市町教育委員会の学校訪問など、様々な研修場面で活用されてきている。

最後に、板書型指導案を活用した授業改善について、今後の方向性を述べたい。

板書型指導案の目的の一つは、「授業の可視化」である。今後、電子黒板やプレゼンテーションソフトを使って教材を提示し、タブレット端末を使って意見交換をする時代を迎え、授業では、これまで以上に多くの情報が提供されるだろう。また、授業にアクティブ・ラーニングが取り入れられることにより、児童生徒の主体的な学習場面が増加すると、そこで行われる話し合いを予想し、これをもとにまとめたり高めたりする必要が生じるだろう。これらを整理・統合するために、授業の諸要素を図解したものが板書である。板書計画は、学習に必要な諸要素の配列や時間配分を可視化したものであり、物理的な黒板の有無の問題ではない。その意味で、板書はカリキュラム・マネジメントの最小単位であるとも言える。

従って、教員が児童生徒に働きかける言葉をどのように選ぶか、子どもたちはどのように反応するのか、これを受けて、どのようにまとめ高めていくのが、具体的に記載され、検証されなければならない。

さらに、板書型指導案のもう一つの目的は、「指導技術の共有化」である。教員同士が磨き合う研修の場面に板書を置くことで、校種、教科、学年を越えて指導技術の情報を共有することができる。一人ひとりの教員がもつ優れた指導のノウハウをワンペーパーで共有できるという意味で、板書型指導案は授業改善の重要なツールである。

板書型指導案の提案者である板倉氏は、「分かりやすい板書型指導案を作成するには、教師の高い思考力や判断力が求められる。教師（特に、若い教師）に付けたい力は、授業を組み立てる『思考力』や、公開授業で鍛えていく『判断力』、授業のイメージを他の教師に伝える『表現力』だと考えている。子どもの『思考力・判断力・表現力』を高めるには、教師自身も同様の力を高めなければならない。教師が共同的に研修することによって子どもたちの学びも共同的になると期待している。」と述べている。世代交代により、多くの若手教員が現場で活躍する今日、ベテランや中堅教員の指導技術を継承・発展させるためにも、板書型指導案の活用が求められている。

板書型指導案の活用により、授業における今日的な課題解決が進むことを期待したい。

謝辞

本稿執筆に当たり、山口市立大歳小学校校長 板倉 豊氏から、多くの情報提供や御教示をいただきました。また、「授業づくり拠点校研修会」を主催する山口県教育庁義務教育課から、情報提供をいただきました。ここに、深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 山口県教育庁義務教育課：板書型指導案活用のすすめ
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/c/0/9/c09b1410329a2668b208fd359302bdd7.pdf>
- 2) 北海道社会科教育連盟：社会科板書型指導案 <http://do-sharen.com/>
- 3) 平成25年度那覇教育事務所指導案様式
<http://www.pref.okinawa.jp/edu/naha/madoguchi/jimusho/naha/h25sidoan/h25sidoan.html>
- 4) 山口県教育庁義務教育課『授業づくり拠点校研修会事例集（活用力向上研究事業）』H25～H27